

ヤマハサウンドシステム主催 「ホール改修セミナー」レポート

スポットライト・オン②

取材：編集部

9月27日(金)、東京のTKP東京駅八重洲カンファレンスセンターにて、ヤマハサウンドシステム(株)主催で「ホール改修セミナー」が行われましたのでレポートします。

日 時：9月27(金) 14:30～16:30 (14:00～受付)

会 場：TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター

9階カンファレンスルーム9C

タイムスケジュール：

14:30～14:40 挨拶

14:40～15:20 【ホールの改修傾向や検討課題と対策】

講師：空間創造研究所 草加 叔也

15:20～15:40 【劇場職員からみた舞台改修】

講師：愛知県芸術劇場 浅野 芳夫

15:40～15:50 休憩

15:50～16:10 【改修におけるリース活用術】

講師：榎本 栄二(ヤマハサウンドシステム)

16:10～16:30 【ホール音響設備の改修事例】

講師：富士田 友和(ヤマハサウンドシステム)

■ホールの改修傾向や検討課題と対策

「ホール改修」はこれまでどの舞台設備会社もセミナーのテーマとして取り上げてこなかった「ありそうでなかった」テーマだと思います。ホール改修においてはさまざまな課題が散見されていますが、今回のセミナーは「計画」「実施」「予算」という3つの観点に絞ったものでした。これらを語るに最もふさわしいと思われる講師として、ヤマハサウンドシ

ステム(株)の社員に加えて(有)空間創造研究所の草加叔也さんと愛知県芸術劇場の浅野芳夫さんがゲスト講師を務めていました。全国から多くのホール・劇場関係者が受講されていました。

草加叔也さんは劇場・ホールなど演出空間を中心に基本構想から施設計画、管理運営計画まで劇場コンサルタントとして各地の劇場施設づくりや技術監督として直接上演活動に

も携われ、現在、(有)空間創造研究所の代表を務められています。

草加さんのプレゼンのテーマは「ホールの改修傾向や検討課題と対策」でした。印象に残ったのは、劇場は経年劣化だけではなく機能劣化も発生するということ。経年劣化による設備の故障は事故にも繋がります。一方、機能劣化ではホールが利用者に選ばれなくなってしまう。つまり、ホール改修は利用者に選ばれる施設になることを目的にしなければならないということでした。

維持管理計画として未来のことはわからないが、現在の施設の経年劣化は予測できるので中長期の改修予測と必要経費の試算は可能。指定管理者制度の任期が5年、10年になっているが必要経費は確保しておく必要があるとのこと。

改修は誰かがやってくれることではなく、自分達で計画して進めていくものである。維持管理を含め責任ある施工業者の選定も行う必要がある。竣工当時に戻すのではなく、将来の活動の為に投資であり、劇場をどう使っていくかビジョンを持つことが重要である、と締めくくりました。



草加さんによるセミナー

■劇場職員からみた舞台改修

浅野芳夫さんはCBCラジオやCBCテレビでリポーターや構成、イベント企画、コンサート司会までこなし、1994年、稲沢市民会館準備室内稲沢市民会館管理協会に入社。事務所主査兼管理グループリーダーとして、音響担当、自主事業企画、大規模改修、保守管理・修繕を担当。2014年愛知県文化振興事業団に舞台技術グループチーフマネージャーとして入社。2016年から劇場運営部長に就任、愛知県芸術劇場の大規模改修を担当されました。

プレゼンのテーマは「劇場職員からみた舞台改修」でした。愛知県芸術劇場の大規模改修を行った際の経験を楽しく説明。劇場の技術スタッフ、そして運営側の意見をまとめることが重要で、更に劇場利用者の意見も聞いて改修に繋げていくことの大切さを教えてくれました。

大中小ホールの改修を分けて行ったので劇場運営しながら改修を行い、その間に使わない機材の置き場所を工夫して外の倉庫代を減らすことができたが、ピアノの保管には大きなコストがかかったとのこと。

改修に対する批判や想定と違うトラブルも起こったが、スタッフや劇場利用者と一丸に



浅野さんによるセミナー



なって進める改修には、その苦勞を越える楽しみがあるとのことでした。

■改修におけるリース活用術

他にヤマハサウンドシステム(株)榎本栄二さんより「改修におけるリース活用術」のプレゼンが行われました。

リースを使うメリットとしては、一時的なインシヤル費用を抑えることで改修工事を行いやすくできること。工事と年間保守点検までリースとして組み込むことができるそうです。

リース期間満了後も費用を平準化した施設維持を行うことができ、今までは通常のリース会社を介したリース方式を行っていましたが、第三者貸付方式や直接リース方式も行うこともできるそうです。



榎本さんからリースについて

■ホール音響設備の改修事例

最後にヤマハサウンドシステム(株)富士田友和さんより、具体的な改修事例の紹介と自社開発製品の紹介がありました。「HYFAXシリーズ」として展開している自社製品では、



改修事例を紹介する富士田さん

デジタルマトリクスコントローラー LDM1、FIRイコライザー AMQ3、出力監視データロガー DL3に加え、ヤマハの残響支援装置AFCの紹介が行われました。

■武田信次郎社長インタビュー

当日は多数の来場者があり、お話できなかったのが後日ヤマハサウンドシステムさんへお伺いしてインタビューを行いました。

編集部：今回設備改修セミナーという内容でしたが経緯を教えてくださいませんか？

武田：以前は「YSS Day」という名前で試聴展示会をやってきましたが、今回は「ホール改修セミナー」という形で顧客の課題解決型のセミナーを行いました。こうしたイベントを企画運営する組織として、今年の1月にマーケティング部を発足させました。

当社にご依頼いただく仕事は、新築だけでなく改修も比較的多いのです。改修の課題を抱えておられるホール・劇場のお客様は非常に多くいらっしゃいますし、そういう皆さんにお役立ちできるようなテーマとして、「ホール改修セミナー」を企画しました。

今回の来場者は東京、名古屋合わせて8割は公共文化施設の皆さんでした。アンケート結果からわかったことは、今回の「ホール改修セミナー」の満足度は非常に高く、ホール改修に対する関心の高さがうかがえました。

ありそうでなかった「ホール改修」をテーマにしたセミナーに、舞台機構会社の方々も来てくれたので、顧客のみならず舞台設備業界においても関心が高いことがわかりました。

ヤマハサウンドシステムは10年を迎え、常にお客様に新しい価値を提供し続けていきたい

い、顧客課題の解決にも取り組んでいきたいと考えております。

編集部：東京と名古屋だけでなく他の都市でも開催してはどうでしょうか？

武田：今回はじめて「ホール改修セミナー」を行いました。このセミナーは継続していこう

と思います。今回愛知芸文の浅野さんに来てもらったので、まずは名古屋と東京で行いましたが、今後は大阪や福岡での開催も検討したいと思います。

編集部：ありがとうございました。



左から浅野芳夫さん、草加叔也さん、武田信次郎さん